

使にかへしたびて月をも御覽せで御よるなれば此御ふみまいらするにおよばずもし兼事ならば、あすもてまいれといはせてかへしければ、使しぶるけしきながらもて歸りけり。

〔類聚名義抄穴〕假寐

サタ・子

〔伊呂波字類抄人事〕竊

ウタ・子

寢假寐

〔運歩色葉集宇〕轉寐

ウタ・子

浮海

〔易林本節用集言辭〕假寐

ウタ・子

〔書言字考節用集八言辭〕假寐

ウタ・子

裏左傳云不脫衣冠而寐也、毛

〔名物六帖人勢作用〕假臥

ウタ・子

後邊韶傳曾

〔倭訓栞前編四〕うた、ね 轉寝の義俗にころびねといふ意也、

〔古今和歌集戀十二〕題しらず

うた、ねに戀しき人を見てしより夢てふ物はたのみ初てき

〔書言字考節用集八言辭〕假寐

カリ・子

〔名物六帖體事四〕假寐

カリ・子

〔源氏物語三十九〕いとめづらしき御ふみをかたぐ うれしうみ給に、この御とがめをなんいか

にきこしめたることにか、

秋の野の草のしげみはわけしかどかりねの枕むすびやはせし

〔後撰和歌集戀十二〕人のもとにまかりて侍によびいれねばずのこにふしあかしてつかはしける、

秋の田のかりそめふしもしてけるがいたづらいねをなに、つま、し

藤原成國

〔名物六帖人勢作用〕假寐

マル・子

小學不脱衣服而寢也、假